ＩＳＳＮ 0285－4767

北海道考古学会だより

第　99　号
２０１１．２．２１

目　次

2011年度総会・研究大会の開催について
2011年度総会について……1
学会運営委員の改選　―委員の推薦について―……1
監査委員の改選　―監査委員の推薦について―……3
会誌編集委員の改選　―編集委員の推薦について―……3
2011年度研究大会「北海道の縄文文化研究の今」……4
2010年度遺跡調査報告会の実施報告……4
2010年度定例研究会開催報告……5
会員からの投稿　「土面」の唇の孔　西脇　対名夫氏……6
事務連絡
会費納入のお願い……8

2011年度 北海道考古学会総会・研究大会の開催について

2011年度 総会について

2011年度総会を研究大会の昼食休憩後に同一会場にて開催します。総会は会員が会の運営に直接参加する重要な機会であり、また今回は運営委員の改選期にあたりますので、多くの会員の出席を期待します。なお、やむを得ず欠席される会員は、必ず委任状を提出されるようお願いします。

日　時：2011年４月23日（土）　13：00～13：40
会　場：北海道大学　学術交流会館（札幌市北区北８条西５丁目）

学会運営委員の改選　ー委員の推薦についてー

北海道考古学会会則第６条、委員および委員会規則第２条、および委員会公募細則に基づき、2011年度から2012年度の北海道考古学会運営委員を下記のとおり推薦願います。

規則第５条および第６条の規定により、地域委員10名、運営委員16名以内が会員の推薦を受け、総会で選出されます。ただし、地域委員は事務局所在地区、および近隣地域からは選出されません。会員は、所属する地区より１名を地域委員として、５名までの会員を運営委員として、同封の葉書または同様式に準じた封書にて事務局まで推薦ください。

なお委員選任に関する規則を下記に抜粋掲載します。詳しくは2007年11月発行の名簿をご参照ください。

会則　（関係部分）
第６条　本会に次の役員をおきます。
(1)　会長　　１名
(2)　副会長　１名
(3)　地域委員　10名以内
(4)　運営委員　16名以内
(5)　監査委員　２名
２　地域・運営・監査委員は、会員の推薦を得て総会で選出し、正副会長は委員の互選により決定します。

3　会長は本会を代表し、副会長は会長を補佐します。地域委員は地域を代表し運営委員は本会の運営実務を担当し、監査委員は本会の会計を監査し総会に報告します。
4　委員の任期は1期、2ヵ年とします。ただし、2期、4ヵ年までの継続再任が出来ます。

北海道考古学会委員公募細則

（目的）

第1条　この細則は、北海道考古学会規則第1号「委員及び委員会規則」（以下、規則という。）第2条で規定する委員の選出方法について定めることを目的とする。

第2条　委員は会員の推薦により委員会が候補者を選定し、総会で決定する。

（推薦）

第3条　会員は、「地域委員」を規則第4条別表1の所属する地域に限り、その所属する地域の会員の中から1名を推薦できる。また「運営委員」を会員の中から5名を限度に推薦できる。

（推薦様式）

第4条　会員からの推薦は、様式1にて行う。封書、葉書およびＦＡＸにて受け付ける。

（委員選出）

第5条　委員選出の手続きは次のように行う。

1）公　　示　文書、だより等で総会の2ヶ月以上前に。
2）受　　付　総会の2ヶ月前から1ヶ月前まで事務局で。
3）集 計 審 査　受付終了直後、事務局で。
4）候補者選定　（委員会決定）総会直近の委員会で。
5）候補者公開　総会開催日までに。
6）委 員 選 出　総会議決。

（候補者選定）

第6条　会員推薦に基づき委員会での候補者選定は次のように行う。

1）地域委員　イ　集　　計　被推薦者が会員で所属地域居住者であること。委員辞任後、2ヵ年以上経過した会員であること。
　　ロ　集　　計　地域、被推薦者毎に。
　　ハ　候補者選定　地域毎に最大数の推薦を得た会員より順次本人の承諾を得て、1名を選定する。
2）運営委員　イ　審　　査　委員辞任後、2ヵ年以上経過した会員であること。
　　ロ　集　　計　被推薦者毎に。
　　ハ　候補者選定　最大数の推薦を得た会員より順次、本人の承諾を得て、定期改選時は16名以内、臨時改選時は欠員数を選定する。

第4条　別表1　地域委員選出地域表

地区名	所属範囲
第1地区	札幌市
第2地区	石狩管内
第3地区	後志管内
第4地区	渡島桧山管内
第5地区	日高胆振管内
第6地区	空知上川留萌宗谷管内
第7地区	網走管内
第8地区	十勝釧路根室管内
第9地区	東北地方管内
第10地区	本州地区（東北地方を除く）管内

別表2　運営委員業務担当表

業務名	業務内容	定数
会長	会代表、委員会議長	1
副会長	会長補佐	1
総務	総会開催、会庶務業務	2以内
会計	会計事務	2以内
会誌	編集委員、会誌発行業務	2
だより	だより発行業務	2以内
研究会	研究大会、月例研究会業務	2以内
見学会	遺跡見学会業務	2以内
報告会	遺跡発掘調査報告会業務	2以内

1．公募期間　2011年３月23日（事務局必着）まで

2．公募対象外会員

会則及び規則により委員となることの出来ない会員は次のとおりです。この会員の推薦は無効となります。

地域委員　嶋井康夫（第３地域）、石井淳平（第４地域）、大橋毅（第８地域）、深澤百合子（第９地域）

運営委員　越田賢一郎、木山克彦、坂梨夏代、松田宏介

3．再任対象会員

現委員のうち、会則および規則により、継続再任が出来る会員は次のとおりです。

地域委員　奈良智法（第５地域）、山谷文人（第６地域）、角達之助（第７地域）、佐藤孝雄（第10地域）

運営委員　小杉康、荒山千恵、佐藤一志、芝田直人、高倉純、手塚薫、宗像公司、広田良成、小針大志、高橋理

監査委員の改選　ー監査委員の推薦についてー

会則第６条の３の規定に基づき、2011年度から2012年度の「監査委員」を下記のとおり推薦願います。北海道考古学会会員名簿などを参考に、監査委員を同封ハガキまたは同様式に準じた封書にて事務局までご推薦ください。

1．推薦期間　2011年３月23日（事務局必着）

2．推薦様式

監査委員の推薦様式は運営委員の推薦様式に準じ、一会員につき２名までの会員を御推薦下さい。

3．推薦対象外会員

現委員のうち、会則および規定により継続再任が出来ない会員は次のとおりです。この会員の推薦は無効となります。

菊池俊彦

4．再選対象会員

現委員のうち、会則および規定により継続再任が出来る会員は次のとおりです。

羽賀憲二

会誌編集委員の改選　ー編集委員の推薦についてー

会則第９条の３および北海道考古学会会誌編集委員会設置要綱（以下「要綱」）２の１の規定に基づき、2011年度から2012年度の「会誌編集委員」を下記のとおり推薦願います。会誌編集委員会は、会員の中から推薦された５名（１号委員）と、運営委員会の会誌担当委員（２号委員）により構成されます。一般会員の中から北海道考古学会会員名簿などを参考に、５名を同封ハガキまたは同様式に準じた封書にて事務局までご推薦ください。

1．推薦期間　2011年３月23日（事務局必着）

2．推薦様式

会誌編集委員の推薦様式は、運営委員の推薦様式に応じ、１会員につき５名までの会員を御推薦下さい。なお、委員への委嘱は会長が行います。

北海道考古学会会誌編集委員会設置要綱　（関係部分）

2．組織

1）編集委員会は、会員の中から推薦された５名（１号委員）と運営委員会の会誌担当委員（２号委員）２名との７名の委員により構成され、北海道考古学会会長が委嘱する。

2）編集委員会に編集委員長および副編集委員長各１名を委員の互選により置く。

3）編集委員の任期は運営委員に準ずる。

3．推薦対象外会員

現委員のうち、要綱により継続再任が出来ない会員は次のとおりです。この会員の推薦は無効となります。

熊木俊朗

4．再選対象会員

現委員のうち、会則および規定により継続再任が出来る会員は次のとおりです。

石川直章、上野秀一、仙庭伸久、守屋豊人

2011年度研究大会「北海道の縄文文化研究の今」

北海道の縄文文化研究の現状を、各地域の事例等を用い様々な方向から捉え、その課題を考えていきます。

日　時：2011年4月23日(土)　10：00～17：20

会　場：北海道大学　学術交流会館（札幌市北区北8条西5丁目）

交　通：JR札幌駅北口　徒歩7分（北大正門から入るとすぐ左手に見えます）

＊駐車場はございません。公共の交通機関でお越し下さい。

内　容：

(午前の部)

9：30　開　場

10：00～10：40　「旧石器から縄文へ―大正3遺跡の評価―」　山原　敏朗氏（帯広市）

10：40～11：20　「北海道における盛土遺構研究の現状」　福田　裕二氏（函館市）

11：20～12：00　「北海道縄文人によるサケ資源の集約的利用の確立・展開―紅葉山49号遺跡の評価」　石橋　孝夫氏（石狩市）

(午後の部)

13：00～13：40　北海道考古学会総会

13：40～14：20　「北海道における縄文文化年代研究の現状と課題」　國木田　大氏（東京大学）

14：20～15：00　「石器の形態学的な方法―“謎”の側縁有溝石器の場合―」　西脇　対名夫氏（北海道教育委員会）

15：00～15：40　「東北地方から見た北海道の縄文晩期」　関根　達人氏（弘前大学）

15：50～17：20　討　論　＊司　会：小杉　康氏（北海道大学）

※　報告のタイトルは変更される場合がありますのであらかじめご了承ください。

※　資料代として、1,000円（予定）を申し受けます。

※　研究大会終了後、懇親会を大学構内「きゃら亭」にておこないます（17：30～。会費は3,500円）。

2010年度遺跡調査報告会の実施報告

今年度の遺跡調査報告会は、2010年12月25日(土)に、北海道大学学術交流会館にて行われました。2010年に北海道内で行われた発掘調査は約70件に及び、その中から道内各地の縄文時代から近世（幕末）までの各時代・時期に及ぶ8件の調査が報告されました。報告は、記録保存のための調査、遺跡の範囲・内容を確認するための分布調査及び学術研究調査と各種別に渡りました。発表者からはそれぞれの目的による調査方法や実践例について、調査の観点や調査プロセス等の解説も含めて報告頂き、今後、調査結果を理解にするにあたり、意義のあるものとなりました。

なお、報告会終了後には恒例の懇親会が催され、会場では、情報交換と交流が行われました。

〔発表遺跡〕　①　木古内町　大平遺跡

②　福島町　館崎遺跡

③　伊達市　北黄金２遺跡
④　厚真町　ヲチャラセナイ遺跡
⑤　斜里町　チャシコツ岬下Ｂ遺跡、以久科海岸北遺跡
⑥　根室市　トーサムポロ湖周辺竪穴群
⑦　松前町　福山城下町遺跡
⑧　厚沢部町　松前氏城跡館城跡

2010年度定例研究会開催報告

今年度は７回の定例研究会を実施しました。発表者の方々にはご多忙の中発表いただき、厚く御礼申し上げます。また当日会場にお越しいただき、貴重なご意見を下さった参加者の皆様に感謝申し上げます。

第１回定例研究会

○日　時：５月30日（日）　15：30～17：30
○場　所：北海道大学総合博物館共同利用研究室
○発表者：高橋　理氏（千歳市埋蔵文化財センター）
○テーマ：出土動物からみるアイヌの儀礼
○内　容：近年の発掘調査や民族考古学的分析をもとにアイヌの動物儀礼を再考した。17世紀まで行われたシカ儀礼が今に伝わらないのは、その生物特性や和人と関わる中でアイヌの価値観が変容したことが要因と考えられた。逆にクマ儀礼は17世紀以前には明確ではなく、盛大かつ荘重な儀礼成立前のプリミティブな形式の存在が推定される。

第２回定例研究会

○日　時：６月27日（日）　15：30～17：00
○場　所：北海道大学人文社会科学総合教育研究棟W104号室
○発表者：鈴木　健治氏（北海道大学）
○テーマ：旧石器時代における住居構造の復元に関する基礎的研究
○内　容：本発表では旧石器時代の住居構造の認識・同定をテーマとした。日本旧石器研究における住居構造研究より問題点を抽出し、ロシアにおける住居構造の事例を参考にしつつ住居構造と周辺の活動空間（「屋内空間」と「屋外空間」の違い）の把握を試みた。また旧石器時代の住居構造の復元作業の意義について言及した。

第３回定例研究会

○日　時：７月25日（日）　15：30～
○場　所：江別市郷土資料館（江別市緑町西１丁目38番地）
○発表者：佐藤　一志氏（江別市郷土資料館）
○テーマ：戦前における江別市内の発掘調査資料―江別市郷土資料館特別展から―
○内　容：旭川市博物館や北海道大学植物園博物館などに所蔵されている江別式（後北式）土器は、指標遺跡である坊主山遺跡出土の他に「江別兵村」と記載されている資料がある。この「江別兵村」と記載された資料は、現在は消失した「沢田山」より出土した可能性を示唆した。

第４回定例研究会

○日　時：10月10日（日）　15：00～
○場　所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517室
○発表者：榊田　朋広氏（札幌市埋蔵文化財センター）
○テーマ：トビニタイ式土器研究の現状と課題
○内　容：本発表では、まず近年のトビニタイ式土器編年研究が抱える多くの問題を指摘したのち、トビニタイ式土器にオリジナルの文様構成を基軸に据えた編年案を提示し、オホーツク土器の特徴がどのように変容し擦文土器の特徴がどのように浸透していくのかという点と、擦文土

器との交渉関係が時間とともにどのように変化するのかという点を論じた。

第５回定例研究会

○日　時：10月31日（日）　15：00～
○場　所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517室
○発表者：北海道札幌稲北高等学校自然科学部地学班の皆さん
○テーマ：余市栄町７遺跡における砂質堆積物の特性から古環境を探る
○内　容：余市栄町７遺跡の砂質堆積物は、INNMAN（1952）の方法により統計学的に検討した結果、海浜砂の特性を有していた。これらの砂は、まず縄文海進期に海浜の環境下で生成され、その後の海退にともなって環境が河川環境下におかれるようになったと推定される。

第６回定例研究会

○日　時：11月28日（日）　15：00～
○場　所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W104室
○発表者：清水　香氏（國學院大學大学院文学研究科史学専攻後期課程）
○テーマ：擦文・アイヌ文化期の出土木製品における和産物について
—考古資料ならびに文献資料からみる交易・移入
○内　容：北海道および周辺地域においては、擦文・アイヌ文化期に活発な交易・交流があったことが出土遺物や文献史料によって解明されつつある。今回は、遺跡から出土した木製品から和産物を抽出、その組成と変遷から当時の物流・木製品のあり方について考察した。

第７回定例研究会

○日　時：１月30日（日）　15：00～
○場　所：北海道大学総合博物館２階中会議室
○発表者：坂本尚史氏（北海道埋蔵文化財センター）
○テーマ：ホロカ沢Ⅰ遺跡出土の幌加型細石刃核石器群の様相
○内　容：幌加技法の範疇で捉えられる細石刃核には概ね高さ３cmを境界として大小のバリエーションが認められる。両者の関係を捉えるため、当該石器群の認識方法を従来の細石刃技法中心の視点から、石刃技法の技術を主眼にした枠組みに変換し、幌加技法石器群の様相の一端を明示した。

会員からの投稿

「土面」の唇の孔

西脇対名夫（札幌市在住会員）

道内では後晩期および続縄紋式の合葬墓がかなり多く見られる。これは死体をすぐ埋葬せずミイラのようなものに作って保存しておき、ある時点で合葬する習俗の存在を意味するものだろう、と考えてきた（西脇2002の113頁ほか）。そうした遺体保存の習俗を前提にすると、例えば墓穴の傍で出土した千歳市ママチ遺跡の重要文化財「土面」（図１）は、元来ミイラの包みの頭部に取り付けてあったもので、しばらく保存してきた遺体をいよいよ埋葬するに際して取り外されたのだろうと想像できるが、もう少し具体的な証拠が欲しいところである。

「土面」の上唇の左右と下唇の中央には計３箇所の孔がある。顎の破損部に残る５箇所の孔とともに、これは髭などを表現した部品を取り付けるための手がかりと考えるのが普通かも知れない（財団道埋文編1987の297～298頁など）。しかし本当に部品を縛りつけるのが目的ならば、面の本体を前後に貫いて孔を開けるのが恐らく自然であり、壊れやすい唇の隆起—実際、上唇向かって右側の孔は壊れてしまっている—をわざわざ選んで上下に穿孔するのは奇妙であるように思われる。

これは死体の保存に際して、口が開かないよう紐で綴じ付けた孔を写したものではないか。死後は頬の筋肉がゆるむので、唇を合わせて固定しておかないとやがて顎が下がって口を開いてしまうのである。

例えば南アメリカの先史時代には、サボテンの棘で唇を串刺しにして固定した例があるという（深作1977の82～83頁など）。仮にこの想像が正しければ、「土面」の表現するものは抽象的な「死者」の顔というより具体的な死体の顔面であるということになり、また同時にその死体は首を立てた姿勢で―従って恐らくは座位で―保存処理されたと考えなくてはならない。

今のところこの「土面」以外に、同様な唇の孔をもつ土製仮面は存在しないらしい。しかし、20点もの土製仮面が出土したことで有名な青森県大畑町の二枚橋(2)遺跡に、上下の唇を貫いて左右２箇所で綴じ付けた状態を表現したように見える例が１点ある（図２）。大洞C₂式からＡ式の頃のものと思われ、重文「土面」とあまり大きな年代差はない。またこれほど明瞭ではないが、北東北の晩期後半の土製仮面には唇の両端にくびれのようなものを表現する例―藤沼ら（2002の137頁）が「口端三角文」と呼んだもの―がかなりあり（図３）、唇の左右で固定がおこなわれたことを反映しているように思われる。してみると北東北の土製仮面にも、保存遺体の梱包に用いたものが多く含まれるかも知れない。

平成18年に北海道開拓記念館の特別展で札幌市Ｎ30遺跡出土の土偶（市指定有形文化財）が展示された際、カタログに「この土偶は、顔に仮面をつけ、体や手足を布でくるんだ死者の埋葬を表現したともいえる。」という解説（同館編2006の62頁）が書かれたことがあった。残念ながらこの土偶の仮面（？）の唇は開いていて、綴じ付けた痕跡はないが、筆者には死体を梱包して仮面を被せることが単なる埋葬上の手続きであったとは思えない。その包み自体が、例えばそれを写した土偶の製作を促すだけの、ある種の完成された呪物としての性格を帯びていたように思われるのである。

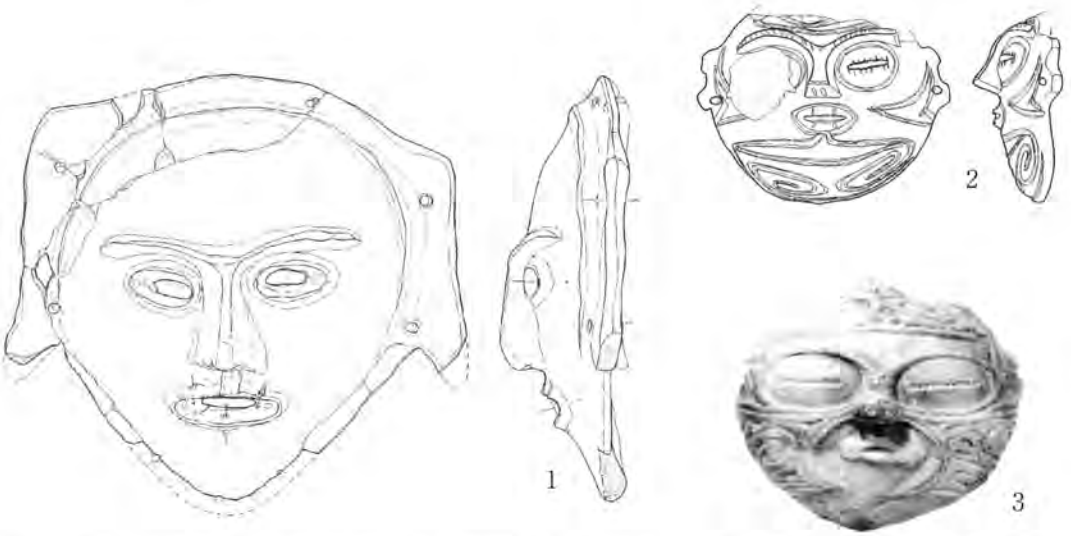

図　唇を綴じた？仮面（Ｓ＝1/3）　１：ママチ遺跡　　２：二枚橋(2)遺跡　　３：亀ヶ岡遺跡

引用文献

財団法人北海道埋蔵文化財センター編1987『千歳市ママチ遺跡Ⅲ』北埋調報36　同センター
西脇対名夫2002「各都道府県の動向　北海道」日本考古学協会編『日本考古学年報53（2000年度版）』同協会　111～116頁
深作光貞1977『ミイラ文化誌』朝日選書96　朝日新聞社
藤沼邦彦・佐布環貴・萩坂華恵2002「青森県における縄文時代の土製仮面について」『青森県史研究』第６号　108～139頁
北海道開拓記念館編2006『第62回特別展　北の縄文□美の世界□』同館

図の出典

図１　財団道埋文編1987の図Ⅲ-254

図２　藤沼・佐布・萩坂2002の図５
図３　東京国立博物館画像アーカイブ

会費納入のお願い

委員会では会計担当を中心に、未納会費の収納や収入の確保に努力しておりますが、未だ、楽観できない状況が続いております。会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年度内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認した後、送付いたします。

郵便局口座番号：02770－６－8358　加入者名：北海道考古学会
年会費：（一般）5,000円　　（学部本科生）3,500円

※退会者については、個人情報保護のため掲載を控えていましたが、次号より掲載を再開します。尚、掲載を希望しない方は、お手数ですが、事務局までご連絡ください。

北海道考古学会だより　　第99号　　2011年２月21日　発行
発行所　北海道考古学会（HP：http：//www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）
事務局；〒060-0810　札幌市北区北10条西７丁目
北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座　小杉研究室気付
TEL/FAX（011）706-4000
E-mail；hokkaidokoukogakkai@m9.dion.ne.jp
印　刷　北海道図書企画　（011）668－1131